

ミッション内容 >>

- ・市内に保存されている古文書等の歴史資料の整理収集、デジタル化、解読作業。
- ・整理済みの古文書の公開、閲覧対応。
- ・デジタル化した資料を活用したイベント、講座等の企画実施。
- ・伊那市の歴史や文化の魅力発信。

◆ 令和5年度のおもな活動成果

- 1：江戸めし給食 マスコミ殺到。全国ニュースになり、広告換算費1,000万円超え達成。
- 2：磯田道史氏の講演会 予約受付開始から3日で150席が満席となる。
- 3：デジタルアーカイブの構築準備 年間120万円のランニングコストを削る予定。

来年度は、デジタルアーカイブの立ち上げと、デジタルアーカイブを利用したイベントを行っていく予定。
卒後は、日本文化を軸にしたクリエイティブ活動をイメージしているが、未定。

1：江戸めし給食

伊能忠敬が高遠を測量に訪れた際の食事を、高遠図書館の古文書資料を元に再現。それを給食に落とし込み、高遠の小中学校3校で提供。前もって事前授業を行うことで、江戸時代に高遠や、日本全国を歩き回って測量を行なった伊能忠敬の姿をイメージしながら食事を楽しめるようなデザインをした。

10月10日のイベント当日にはマスコミが殺到し、新聞社8社、テレビ局5社、ネットニュース16社がこのニュースを流した。中でもNHKは全国放送でこのニュースを流した。これにより広告換算費として1,100万～1,200万円を達成した。



古文書のデジタル化及び活用

前田和弘 | 生涯学習課 | 任期：令和5年4月～(1年目)



2：磯田道史氏の講演会

歴史学者の磯田道史氏の講演会を8月12日に行った。

TVでお馴染みの磯田さんということもあり、予約受付開始から

3日で150席が満席となり、大盛況となった。



磯田道史氏（歴史学者・国際日本文化研究センター教授）
一九七〇年岡山市生まれ。慶応義塾大学、慶応義塾大学院卒。茨城大学助教授、静岡文化芸術大学教授を経て、現在、国際日本文化研究センター教授。初著『武士の家計簿』で新潮ドキュメント賞を受賞し映画化。「無私日本人」の編「穀田屋十三郎」も「殿、利息でござる！」として映画になっている。「近世大名家臣団の社会構造」で博士（史学）。東日本大震災後に「天災から日本史を読みなおす」を、コロナ禍中は「感染症の日本史」を書き、歴史を社会に活かす試みを続けている。NHK大河ドラマ「西郷どん」を監修し、京都市長役で出演。歴史番組「英雄たちの選択」の司会でも知られる。近著は「日本史を暴く」、「徳川家康 弱者の戦略」、「世界を動かした日本の銀」ほか。

「日本史と地域史」
「古文書活用の未来」

ISODA MICHIFUMI LECTURE

磯田道史氏

講演会

入場料 無料
定員先着 150名
要事前申込

日時 2023年8月12日(土) 開場 13:00
開演 13:30～15:00

会場 伊那市高遠町総合福祉センター
「やますそ」3階大会議室（伊那市高遠町西高遠 1644）

※駐車場は高遠町文化センター（伊那市高遠町西高遠 810-1）をご利用ください

申込受付開始日 2023年7月19日（水）午前9時～
申込先 高遠町歴史博物館（電話 0265-94-4444） またはQRコードより



主催 伊那市・伊那市教育委員会 後援 伸和コントロールズ株式会社

3：デジタルアーカイブの構築準備

デジタルアーカイブを構築して、古文書資料をネットで閲覧できるようにしたいという要望を受け、それを実現するための準備を現在行なっている。

デジタルアーカイブの構築には初期費用240万、ランニングコスト年間120万という高額な費用がかかるが、それだけの価値を生み出すのが難しいという課題がある。

その課題解決のために、東京大学の研究室や民間の研究機関などに声をかけて、協力体制を構築中。

こちらが資料提供を行い、それを使って研究機関が研究を推し進めるというギブアンドテイクの関係を結ぶことで、年間120万のランニングコストを0にして、持続可能な状態を作れるのではと考えている。

2月13日には、教育長などを対象に説明会を行うことが決まっていて、準備中である。

来年度の予定

- ・ デジタルアーカイブの立ち上げ。
- ・ デジタルアーカイブを利用したイベント。

東大の教授を招いたイベントや、全国規模の古文書解読コンテストなどを構想している。

1,000万円超えの効果 come 来年度も狙っていく予定。

卒後の予定

日本文化を軸にしたクリエイティブ活動をイメージしているが、未定。